

# 実用的技術の教育訓練となる建築技術職人育成研修の実施方策及び持続的な運営方策の検討

## <調査概要>

■調査実施地域:神奈川県小田原市

■調査実施者:小田原職人学校設立推進協議会

- ・小田原市では、小田原城跡とともに近代の歴史的建造物が固有の歴史的風致の形成に重要な役割を果たしているが、伝統工法に通じた職人の不足等により、その保全・活用が困難な状況に陥っている。このため、H25年度より職人育成研修についての調査を行っているが、今年度はより実用的な手法として、職人組合等からニーズのある職人育成研修の提案を募り、講師や研修内容に応じた教材の選定等の面での支援を行って実践する公募型研修について実証調査を行うとともに、行政と民間とが連携して職人育成研修の運営を行う仕組みについても検討した。
- ・調査の結果、従来研修よりも受講生の意欲醸成が高まったという点で公募型研修の有効性が確認されたが、提案研修だけでは職人育成に必要な研修の全てがカバーできないこともわかった。また、持続的に研修を運営していくためには、研修の成果を「仕事」に結びつける仕組みづくりが必要であり、これを推進する組織を官民連携して設立していくことが次の課題となった。

## <調査内容>

**建物悉皆調査** 中心市街地170haで実施

- ・把握した歴史的建造物 → 115件
- ・研修教材としての適性確認 → 29件

歴史的建造物保全等の基礎調査としても重要



### 研修提案の公募と研修の企画・立案

8団体・1個人から12件の提案。うち6件を採択

- 伝統工法による茶室新築 ●茶室の京畳作成
- 日本庭園の樹木調査 ●回樹木の透かし剪定 ●高校生の大工研修
- ヘリテージマネジャーの活動実践 (未実施提案も今後にストック)

提案公募には積極的働きかけが必要



異なる研修提案(大工・畳)のマッチングも実施

協議会の支援内容

- 講師・教材等のマッチング(交渉等も含む)
- 研修経費の負担(材料費・講師謝礼など)

## 持続的で効果的な研修運営等の課題

### 職人の疑念に答えるための仕組みと工夫

技能検定で技術は習得済み、今さら研修不要／受講料の納入より手間賃の支給が必要／伝統工法を習得してもそれを生かす場がない／研修による技能向上等は自己満足・・・

技術維持における研修の有効性の証明⇒職人の意識改革  
研修成果が「仕事」につながる仕組みづくり

### 研修推進組織に求められる要件

- ・研修自体が修理の一部分を担う実践型研修の推進を媒介とした職人と「仕事」とのマッチング
- ・専門知識を有し機動力のあるコーディネータの育成、確保
- ・自立的、持続的な運営体制、財政基盤の確立 など

## 公募型研修の実施例



工夫施上の

- ・新築による伝統工法の基本の習得
- ・簡易作業には一般の参加者も募集



高校生の大工研修

- ・畳作製後、他地域講師による技術水準の確認
- ・授業の一環としての体験的研修による裾野の拡大

## 公募型研修の効果と課題

- 効果
- 【受講者の場合】
    - ・主体的、積極的な研修への対応
    - ・継続的な研修実施の意向の醸成 など
  - 【一般参加者(見学者)の場合】
    - ・歴史的建造物への興味の拡大
    - ・可能な範囲内の支援意識の醸成 など

課題  
公募型研修では必要な研修のすべてはカバーできない

公募型研修を踏まえた包括的な研修カリキュラムの編成

## 本調査の成果を踏まえた次の展開

本格的な職人育成研修組織の設置に向けた取り組み

「歴史的風致維持向上支援法人」化

- ・行政と連携し「歴まち計画」を推進  
公募型研修を生かしながら実践型研修を推進  
建築基準法の適用除外など必要な制度面での整備等でも連携
- ・まちづくりコーディネータとしての活動の展開 など